



廿日市市教委だより

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

平成30年
3月22日
第7号

今年度もあとわずかです。先生方にとって、どのような1年間だったでしょうか。1年間のまとめを踏まえ、来年度よりよいスタートを切ることができるようにしっかりとした準備をしましょう。

今年度の市教委だよりも最終号です。1年間、ありがとうございました。



遊び 学び 育つ 宮島っ子！ ～宮島幼稚園では自分で考えて動く子どもを育てます～

平成30年度から新幼稚園教育要領が実施されます。

改訂のポイントは、「環境を通して行う教育」を基本とすること（現行どおり）、幼稚園教育において育みたい資質・能力を明確化したこと、幼保小接続を推進することなどです。

宮島幼稚園の幼児教育について、永川静優園長先生にお聞きしました。



めざす園児像「やさしい子・がんばる子・げんきな子」
「感じる力・気付く力」を大切に、「自分で考え動くことができる子ども」を育みたいと考えています。先生方は、意図的に園児が自分で考える場をつくり、日々指導しています。



小・中学校との交流、連携 ※来年度から小学校には幼保小連携担当教員が位置付けられます
宮島小学校とは、低学年を中心に交流しています。また、全園児が小学校で給食を食べる「体験給食」を実施したり、宮島中学校の9年生による読み聞かせを行ったりしています。



小・中学校では教科指導を通して学力定着をめざしますが、幼稚園では遊びや集団での活動を通して、家庭という「個」から園という「集団」の中で、生活全般の基本的な生活習慣などを学ばせています。

「環境を通して行う教育」の「環境」とは、物的な環境だけでなく、教師や他の幼児も含めた幼児の周りの環境全てを指します。幼児教育では、人や物に主体的に関わることで、試行錯誤したり考えたりすることを大切にしています。

連携は、お互いの教育・保育を知ることから始まります。小学校の先生には、園での活動をいつでも参観していただきたいと思っています。

ようこそ！台湾からの友だち

～基隆の中学生と交流しました～

次年度は廿日市から基隆への訪問を計画しています。

1月27日から31日まで台湾基隆市中正中学校の中学生4名と校長先生等3名が廿日市市を訪れました。

中学生は七尾中学校で交流し、生徒宅でホームステイしました。英語やジェスチャーを使って何とかコミュニケーションしようとする様子が印象的でした。

双方の中学生にとってすばらしい体験となりました。



- 廿日市市に帰った後、私たちはホストファミリーの家に行きました。ホストファミリー家は優しく、日本語が分からない時に、細心の注意で、辛抱強く教えてくれました。
- 授業中、生徒たち一人一人は先生の質問に対し、非常に積極的に答えようとしていることを発見しました。彼らはクラスメートやお客さん、先生に対してとても優しく、とても親切でした。
- 今回の留学生交換イベントはとっても良かったです。また今後もこのような留学生交換イベントを継続して欲しいです。七尾中学校の生徒たちにも基隆市に来て欲しいです。
(基隆中学生の日記から)



3000人プロジェクト実施中！ ☆地御前小学校の地域と学校を結ぶ取組☆

地御前小学校では、保護者や地域と連携し、開かれた学校づくりを推進するため、地域行事に参加する児童延べ3000人を目標にしています。

地域行事の詳細を把握し、学校から地域行事の案内文を出したり、学校朝会や担任から学級での声かけをしたりしているそうです。行事の様子は、HPや学校だよりで積極的に発信しています。

3月20日時点、地域行事に参加した児童は、2370人です。地域とともにある学校をめざしています。



伝統的な行事、流鏝馬（馬とばし）の様子です。小学校のグラウンドに馬がやってきました。



地区運動会。ラジオ体操は小学校の先生がしています。

とんど祭り。年男・年女が火をもらい、点火しました。



市民センター祭り。6年生が売り子をしました。

廿進!!『学びの変革』⑤

～平成30年度「課題発見・解決学習」全県展開～

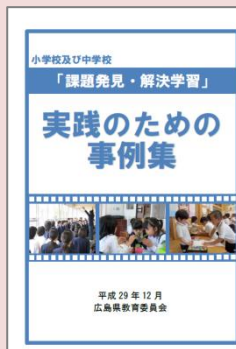
もうすぐ新年度。いよいよ「課題発見・解決学習」全県展開が始まります。広島県の教員であれば、「今年度、私はここで『課題発見・解決学習』を実践します。」と、明言できなければなりません。

平成30年1月30日の「学びの変革」推進協議会で各校へ配付した、「実践のための事例集」の活用における留意点には、次のようなことが書かれています。

- ◇「各事例を参考にしながら、それぞれの地域や学校、児童生徒の実態等を踏まえ、自分であればどう改善するかという視点で十分に検討し、活用してください。」
- ◇「事例集を活用した校内研修を行い、具体的な授業改善を学校全体で進めてください。例えば、事例の1つを取り上げ、『児童生徒の思考の深まり』の欄にある主体的な学びの姿を実現させるためには、どのような指導の手立てが有効であったのか、「学習過程」や「指導のポイント」から確認し、更に、自校であればどのような指導の手立てが考えられるかを協議する等の研修が考えられます。」

この「実践のための事例集」を有効に活用して、廿日市市の全ての学校で「主体的な学び」が促され、子どもたちが生き生きと学ぶ姿を、私たちの教職員が引き出していきたいと思います。

先生も、子どもたちも「授業が楽しい」と言える廿日市市をめざしていきたいと思ひます。



生徒指導 スキルアップ! ⑤

「かかわること⑤ ～脳の仕組みを知った最高の言葉～」

今年開催の平昌オリンピック・パラリンピックでは、メダルをとった選手が異口同音に発する言葉があります。それは、「ありがとう」等の感謝の言葉です。

「感謝」にはすごい力があります。「感謝していない＝心に不平不満を抱えている」とき、人の脳はマイナス思考になっています。人は何かに感謝しているとき、人とのつながりを確認できるので、心は安心感に包まれます。すると、どんな否定的な脳も、とたんに肯定的に捉えることができます。

「感謝する」というとても簡単なことだけで、成功者たちのように何事にも前向きに取り組める「最高の脳」が持てるのです。感謝の言葉を繰り返すうちに、気心知れた人はもちろん、苦手な相手や苦しい状況などに対しても反射的に感謝できる脳になっていきます。ということで……

小さなことでもいいから、とにかく感謝の言葉を口にする習慣をつける!!

スキルアップ ポイント! 📌

廿日市市教育委員会では、「つながり支援プロジェクト」として、「自己有用感の育成」を図っています。その鍵となるのは、感謝の言葉「ありがとう」です。各校で、仲間の活動を認めたり、褒めたりする、小さなことに対しても「ありがとう」と感謝でき、人から「ありがとう」と感謝されることをすることで喜び…これこそ、自己有用感です。そんな素敵な姿が溢れる学校にしていきたいと思います!